

麻黄附子細辛湯の 1/2服用量の投与
にて CRP 値改善と解熱がもたらされ
た OFLX 耐性菌感染症の 3 症例

鳥海善貴^{1, 2} 名倉 智¹ 亀井 勉^{1, 3} 熊野宏昭⁴
富岡治明⁵: ¹島根難病研究所 ²ダイヤモンド崎望
館 ³ナーシングセンターひまわり ⁴東北大学医学
部人間行動学 ⁵島根医科大学微生物学

〔目的〕麻黄附子細辛湯は、老人や虚弱者の感冒等
を主な適応としている。われわれは、3 日間の OFLX
投与で CRP 値が基準値に戻らない高齢の有熱者に、
麻黄附子細辛湯（コタロー麻黄附子細辛湯エキスカ
プセル〔以下 NC127〕、1 日服用量は 6 カプセル
〔1200mg〕）を 1/2 の服用量で用い、体温と CRP 値
等の変化を調べた。

〔症例〕症例 1：89 才女性。1991 年に腎盂腎炎発症
後、尿路感染を繰り返していたが、1995 年 8 月の尿
細菌培養は陰性だった。同年 9 月に再び 37.7℃ の発
熱が出現し（WBC 5500, N. Seg. 39%, Lym. 50%, CRP
1.57mg/dl）、OFLX300mg の 3 日間投与にて 37.4℃ま
でやや軽快したが（WBC 4400, N. Seg. 46%, Lym. 38%,
CRP 0.97mg/dl）NC127 を 600mg/日にて 7 日間投与し
た結果 36.5℃ となり（WBC 4200, N. Seg. 45%, Lym.
42%, CRP 0.12mg/dl）治癒軽快した。症例 2：90 才
女性。1994 年から MRSA 陽性、気管支炎・肺炎と腎盂
腎炎を繰り返していた。1995 年末に再び 38.1℃ の発
熱を生じ（WBC 8700, N. Seg. 73%, Lym. 13%, CRP
1.78mg/dl）、OFLX300mg 3 日間投与にも 38.0℃ と解
熱せず（WBC 5600, N. Seg. 69%, Lym. 21%, CRP 3.48
mg/dl）、NC127 を 600mg/日にて 7 日間投与した結果
36.7℃ となり（WBC 4300, N. Seg. 42%, Lym. 50%, CRP
0.12mg/dl）治癒軽快した。症例 3：85 才女性。1995
年末から肺炎を繰り返し、1997 年 5 月に再び 37.9℃
の発熱を生じ咽頭培養で MRSA 陽性（WBC 3900, N.
Seg. 49%, Lym. 43%, CRP 1.46mg/dl）。OFLX300mg を
3 日間投与したが 37.7℃ と改善せず（WBC 3500, N.
Seg. 55%, Lym. 38%, CRP 0.85mg/dl）NC127 を 600mg/
日にて 7 日間投与した結果 36.8℃ となり（WBC 4500,
N. Seg. 55%, Lym. 35%, CRP 0.40mg/dl）軽快した。
〔結論〕高齢者では、1/2 服用量の麻黄附子細辛湯
（NC127）の 1 週間ほどの投与により、MRSA 等の耐性
菌や菌交代現象による弱毒菌の感染症は軽快し、治
癒にまで至りうることが示唆された。